

北海道浮魚ニュース

令和 8(2026)年度 14 号

2026 年 9 月 28 日

道総研 釧路水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎道東太平洋 9 月浮魚類分布調査結果

マイワシは漁獲されなかった。

カタクチは 11cm 台が主体

サンマは 27cm～34cm 台

試験調査船北辰丸(釧路水産試験場所属)によって行われた 9 月浮魚類分布調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2026 年 9 月 1～11 日
- ・ 調査方法：流し網を用いた漁獲調査（原則 17 時投網，翌 5 時揚網）
計量魚群探知機による魚探反応の計測
CTD，XCTD による海洋観測
NEAR-GOOS*表面水温（9 月上旬）の解析
※NEAR-GOOS 地域リアルタイムデータベース
http://ds.data.jma.go.jp/gmd/goos/data/rtrdb/data_usage_J.html
- ・ 調査海域：道東太平洋海域

1. 水温分布

2026 年 9 月の道東太平洋海域の表面水温は，十勝から根室の沿岸近くでは 20℃を下回った一方で，沖合域で 20℃～22℃台の水が広がっていました（図 1）。2025 年の同時期と比べて親潮の張り出しは弱いものの，直近 4 年の同時期の中では比較的低い表面水温になりました。流し網調査点における表面水温は 20.6～22.6℃でした（表 1）。

2. 計量魚探調査

道東太平洋海域において計量魚探調査を実施しました（図 1）。従来の沖合の調査ライン（図中青色で示した反応）に加え、2025 年に新たに設定した厚岸から根室にかけての沿岸調査ライン（図中緑色で示した反応）においても，計量魚群探知機によるデータの収録を行いました。

沖合域における平均魚探反応量（ m^2/nmi^2 ）は 130 で，2025 年，2024 年および 2023 年調査時の平均魚探反応量（158，137 および 223）と比較して小さい値を示しました。過去 3 年の調査では，十勝沖の調査ラインで比較的大きな反応量がみられましたが，

2026 年の調査ではそれがみられませんでした。

一方、厚岸から根室にかけての沿岸域における平均魚探反応量は 1360 で、沖合域と比べ、高い値を示しました。サンマやカタクチイワシなどの有鰭魚による反応と考えられます。

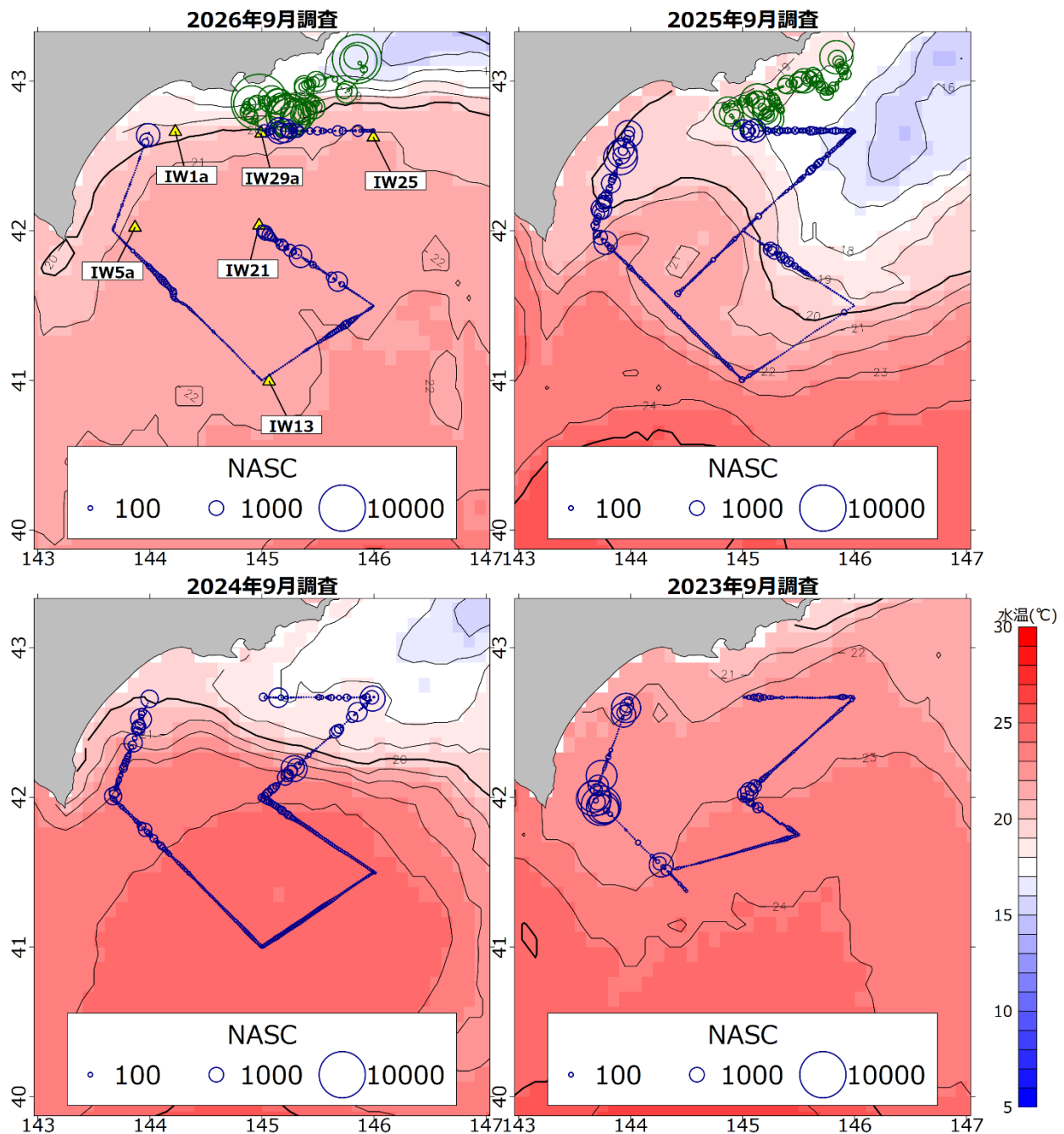


図1 計量魚群探知機の魚探反応量と表面水温および2026年9月調査における漁獲調査点（左上図：2026年9月調査，右上図：2025年9月調査，左下図：2024年9月調査，右下図：2023年9月調査）魚探反応量は，沖合調査ラインを青色，沿岸調査ラインを緑色で示す。

（表面水温：NEAR-G00S 表面水温旬平均値，NASC：1平方マイルあたりの魚探反応量）

3. 流し網調査

調査期間中，流し網による漁獲調査を6点で実施し，サバ類が4.5尾，カタクチイ

ワシが 5.0 尾、サンマが 46.5 尾、アカイカが 873.3 尾漁獲されました（表 1、図 2）。1 操業あたりの平均漁獲尾数はサバ類が 0.8 尾、カタクチイワシが 0.8 尾、サンマが 7.8 尾、アカイカが 145.6 尾でした（図 3）。アカイカを除くすべての魚種で、2025 年調査の平均漁獲尾数を下回りました。

今回の調査では、マイワシの漁獲がありませんでした。マイワシが漁獲されなかったのは、2001 年調査以来 25 年ぶりでした。

2011 年から 2025 年まで、道東太平洋沖では大中型まき網によりマイワシが漁獲されていました（漁期：6 月後半～10 月末）。2019 年から 2024 年にかけて、年間 20 万トンを超える漁獲が続き、2025 年も 15 万 7 千トンの漁獲がありました。ところが 2026 年は 9 月上旬に至るまで、道東太平洋海域におけるマイワシの漁獲はありません。本調査の結果からも、2026 年度は道東太平洋海域におけるマイワシの分布密度が、非常に低いものと考えられます。

漁獲されたサバ類は尾叉長 10cm 台および 13cm 台の小型の個体で、2025 年に漁獲された 20cm 以上の比較的大型の個体はみられませんでした（図 4）。カタクチイワシの体長組成は体長 10.5cm～12.5cm 台、サンマは 27～34cm 台でした。

表 1 流し網調査点の位置、投網日、水温および魚種別漁獲尾数

調査点 番号	投網日	漁獲位置		水温（℃）			CPUE（1操業あたり漁獲尾数）				
		北緯	東経	0m	50m	100m	サバ類	マイワシ	カタクチ	サンマ	アカイカ
IW 25	9/1	42-37	146-00	22.4	13.6	9.2	0.0	0.0	0.0	10.5	233.5
IW 1a	9/3	42-40	144-14	21.1	12.5	8.0	4.0	0.0	0.0	10.0	121.5
IW 5a	9/4	42-01	143-52	21.9	10.0	6.7	0.0	0.0	0.0	22.0	136.5
IW 13	9/5	41-00	145-04	22.1	5.0	3.7	0.0	0.0	5.0	0.0	132.8
IW 21	9/6	42-02	144-58	22.6	16.4	12.4	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0
IW 29a	9/9	42-39	145-00	20.6	10.5	8.2	0.0	0.0	0.0	4.0	249.0

※漁獲尾数は 2019 年以前の反数に換算した値

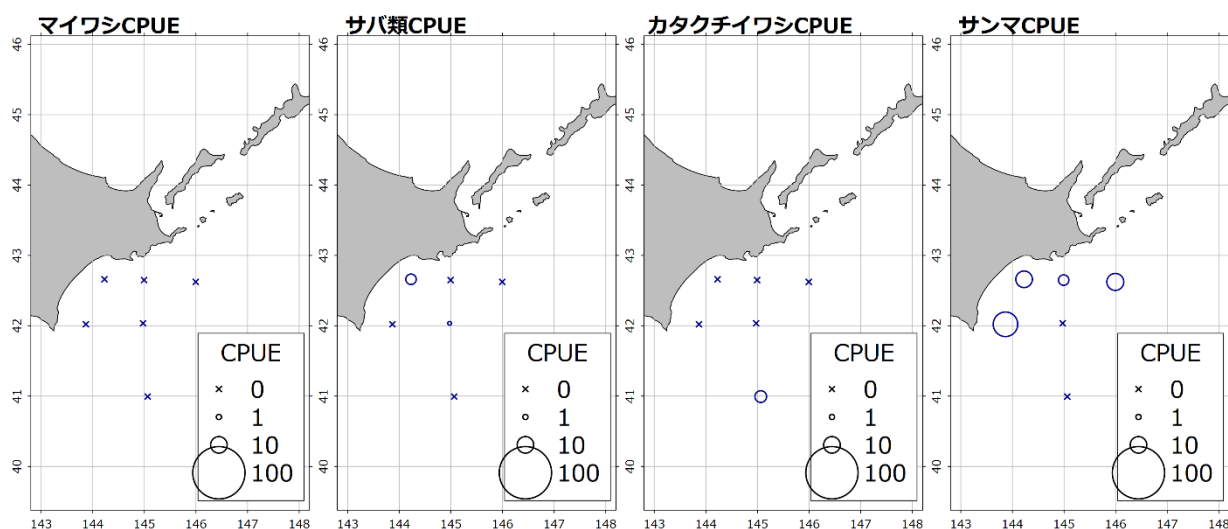


図 2 各魚種の調査点別 CPUE

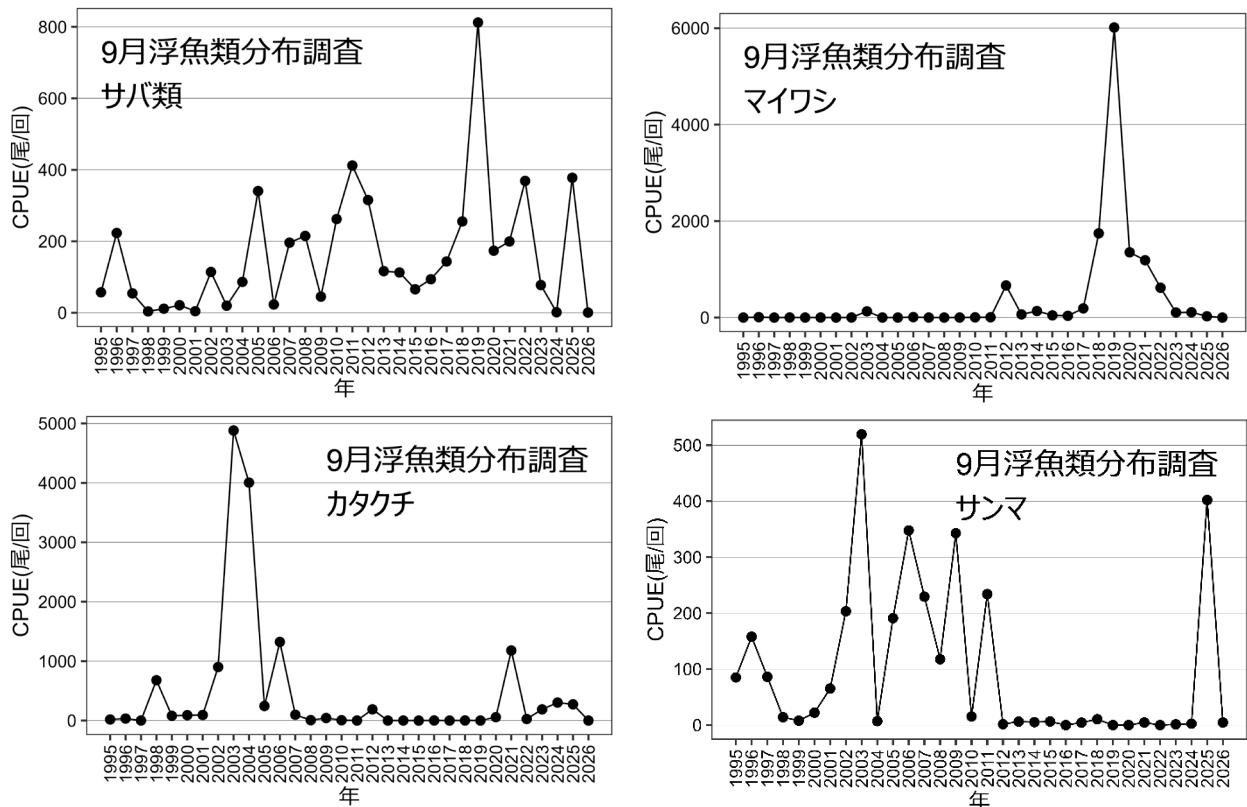


図3 9月調査による平均 CPUE の推移 (CPUE : 1 操業あたり漁獲尾数)

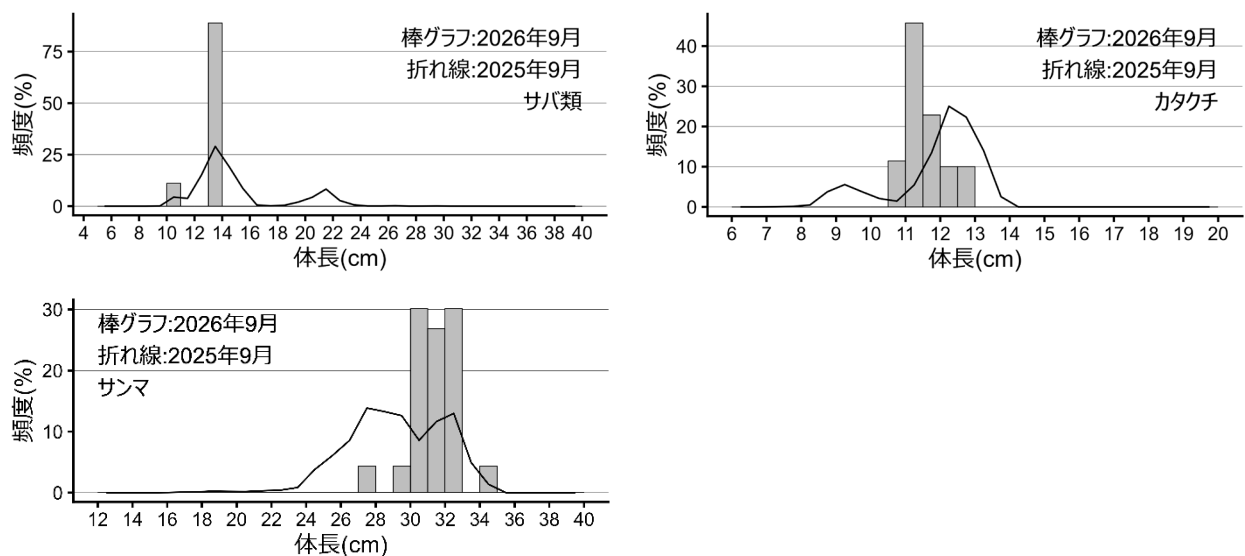


図4 2026 年および 2025 年 9 月調査で漁獲された浮魚類の体長および尾叉長組成
(左上：サバ類，右上：カタクチイワシ，左下：サンマ)

4. 全周ソナーによる魚群体積の測定

沖合の調査ラインで収録した全周ソナー (SX90, Simrad 社製) の音響データから、魚群の個数と体積を算出しました。

沖合の調査ライン全体を通して 194 個の魚群が検出されました。大津沖や厚岸沖の比較的沿岸に近い調査ラインで魚群が多く見られたほか、北緯 42 度以南・東経 144 度以東の沖合域においても魚群がみられました。魚群が多く出現した場所と、計量魚群探

知機の反応量が大きかった場所は概ね対応していました。

魚群の大きさに着目すると、大きな魚群は大津沖や厚岸沖に分布していました。大津沖では 100 万 m^3 を超えるような大きな魚群もみられました。

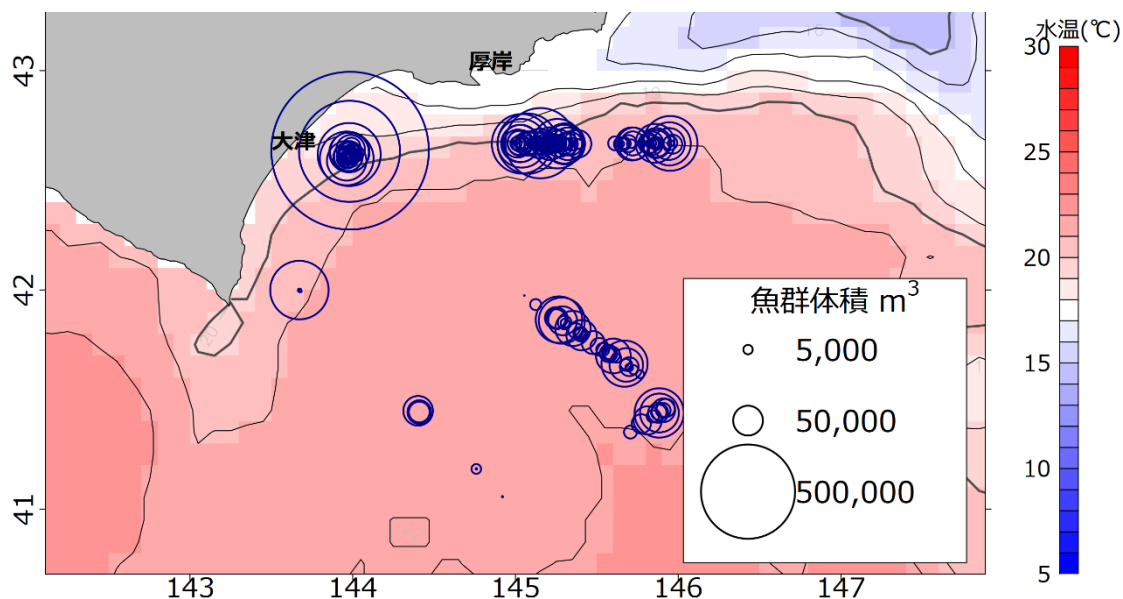


図 5 2026 年の 9 月調査における全周ソナーで観測された魚群の体積と表面水温
(表面水温：NEAR-G00S 表面水温旬平均値)

SX90 およびデータ解析の設定

周波数：26kHz, FM 波

範囲：船の周囲半径 20m～440m (水深換算 6m～42m)

流し網調査の詳細：9 種類の目合の流し網を用いた漁獲試験 (付表)。原則 17 時投網，翌 5 時揚網。調査時の各目合の反数は付表のとおり。過去の調査結果との比較のため CPUE (1 操業あたり漁獲尾数) は 2019 年度以前の反数 (182 mm を除く) に換算した値を用いました。

付表 9 月浮魚調査における流し網の目合別反数

目合 mm	22	25	29	37	48	55	63	72	82	182
2024年～	2	2	2	2	2	2	2	4	4	0
2020～2023年	2	2	4	2	2	2	2	4	4	0
～2019年	1	1	4	4	2	1	1	1	2	12

※本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。

北辰丸 海洋観測速報 (試験運用中) <https://hro-fish.net/hokushin/>
(釧路水産試験場試験調査船北辰丸の海洋観測結果がご覧になれます。)

お問い合わせ先：釧路水産試験場調査研究部，[TEL:0154-23-6222](tel:0154-23-6222)
[FAX:0154-23-6225](tel:0154-23-6225)